

ママが聞きたい

観光振興と観光資源の活用は

町長 フラワー長井線の活用展開を探る



新野いく子議員

新野 昨年のプレDC（テストイネーションキャンペーン）の成果と今年の取組みは

新野

DCは今後のまちづくりや地域振興につなげるための取組みだが昨年のプレDCの成果と今年のDCへの取組を問う。

町長

昨年、文化交流センターあゆむで「べにばなアート展―紅花Colors―」の開催、商品開発、パレス松風での舞子演舞を見ながらの紅ランチなどにより

誘客に取り組み、観光入り込み客数は対前年比158パーセントとなった。今年は、写真家の浅井慎平氏の撮影旅行や7月12、13日の紅花まつりに特別列車の乗り入れなどが決定している。

DC後の観光振興は

新野

町の維持、活性化のためには交流人口を増やす必要があるが来年度以降の観光振興を問う

町長

観光フォーシーズン化をベースに、観光拠点を中心としてフラワー長井線を活かしながら、観光交流推進計画を策定して、今後の観光素材の活用・展開を探る。

最上川の文化的資産活用は

新野

「最上川の文化的資産50選」として白鷹町から6ヶ所が選定された県では、最上川を見つめ直し活用しながら未来に伝える取

組みを進めているようだが、町の取組みを問う。

町長

昨年、黒滝会の皆さんと一緒に最上川の文化的資産の魅力を再発見する事を目的に最上川シンポジウムを開催した。「未来に伝える山形の宝」登録制度の指



活用が問われる文化的資産の最上川

学校での子ども達の地域の学びは

新野

白鷹町の最上川の歴史、文化等の学校での取り組みを問う。

教育長

「本町の身近な地域」という副読本を作成し、小学3、4年生でその副読本に基づいた学習を行っている。

ジオパーク構想を

新野

現在、日本各地でジオパーク構想が広まっているが、白鷹町を地質学による地域おこしにつなげるため、ジオパーク認定に対する考えを問う。

副町長

地勢的な観点での取り組みを深めながら、最上川が我々にどのような文化的また歴史的な基盤を与えてきたかということを確認することが出発点と考える。具体的には地質学者も含めた町民の方々の勉強会という形で進めていきたい。